

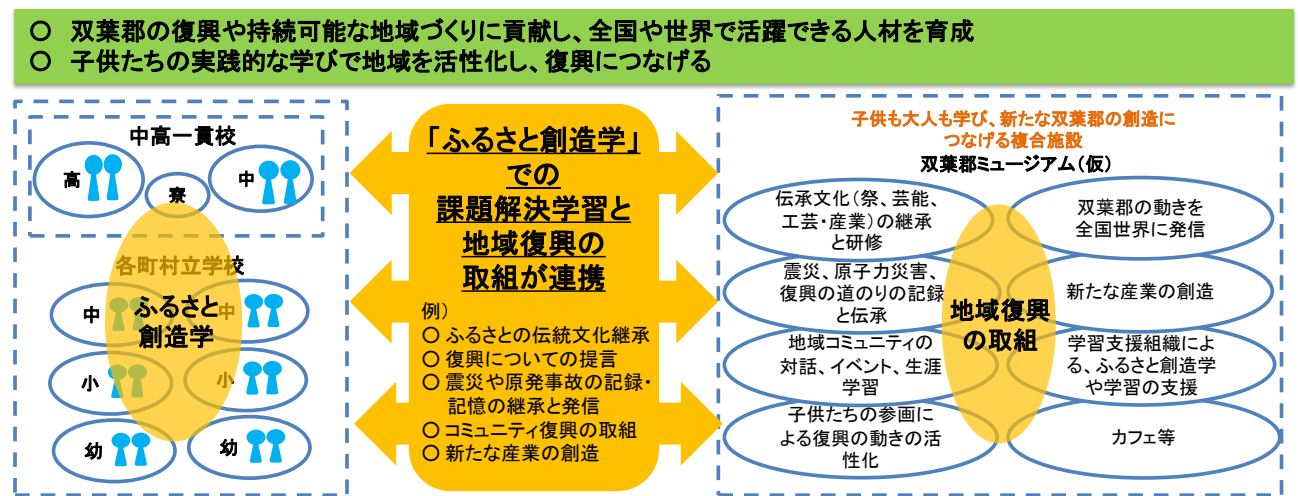
地域コミュニティ復興拠点施設の必要性とその機能について（WG 2 検討内容）

双葉地方の住民は長引く避難生活によって、自分たちの暮らしと文化が奪われてしまっている。それでも何とか避難地域での生活を成り立たせている状況を考えると、それらの人たちの思いをどのように繋いでいくか、その人たちの暮らしと文化、誇りをどのように取り戻していくかは、双葉地方の再生と復興には大きな課題になっている。

これまで、双葉郡の教育復興を果たしつつそれを地域復興につなげていく、その仕組み作りを検討してきた。

その一つが、中高一貫校に地域コミュニティ復興拠点施設を併設することであり、子どもの学びを地域一帯で支えつつ、その過程で大人も学び、双葉の住民としての誇りを取り戻していく。

地域コミュニティ復興拠点施設イメージ



施設に必要な機能とその必要性

① 伝統文化（祭り、芸能、工芸、産業）の継承と研修

- ・ 伝統文化は被災住民の心のよりどころであり、地域の復興に向けた気持ちを奮い立たせ、復興を促進する働きがある、被災地の多くで継承の危機
- ・ 無形文化財の伝承の取組を行える研修施設のようなものが必要。子供たちが学習の中や課外活動で見学したり参加したりできる

② 震災、原子力災害、復興の道のりの記録と伝承

- ・ 東日本大震災および原発事故の記録化
- ・ 再生・復興の記憶の風化防止と、教訓等の後世への伝承
- ・ 生徒の関心や学習の動機を喚起するためにも、地域の復興に尽力する大人の姿を見せる

③ 地域コミュニティの対話、イベント、生涯学習

- ・ 人が動くことで地域は活性化する
- ・ 地域に参加し、何かの、誰かの役に立っているという想いは、その人のやりがいや生きがいになり、心の再生・復興につながっていく

④ 子どもたちの参画による復興の活性化

- 子どもといえども地域の課題に向き合い、課題解決の提案をしていく。その過程で、子供たちが地域に飛び出して行き、復興に関わる大人たちとの交流を通して、心の復興を活性化させていく
- 「ふるさと創造学」による探究型・課題解決型学習（アクティブラーニング）を支援

⑤ 学校支援組織によるふるさと創造学や学習支援

- コアとなる学校支援地域本部（被災地の教育として地域全体で学校を支えるシステム構築）
- 学力支援（ゼミ方式）

⑥ 憩いの場・再会の場としてのカフェ

- 学校に必然的に人が集まる場所をおき、人の循環を作り出すことで町や教育を活性化
- 大人同士のコミュニケーションができる場、お茶を飲みながら語れる施設

⑦ 新たな産業の創造

- イノベーション・コースト構想との連携（マンチェスターアカデミー的なオープンラボラトリーやフューチャーセンター）
- 産学連携機能によって、常駐する企業や大学の技術者、研究者をスーパーティーチャーとしてキャリア教育を実施
- 将来の起業、就職、進学先としての連携を進める

⑧ 双葉郡の動きを全国・世界に発信

- 情報発信を通して、習得した知識や技能をベースに、思考力・応用力・表現力を磨き、かつ、主体性・協働性・創造性の育成につないでいく
- 被災体験の風化や風評被害の防止
- 発信を通して異世代・異文化交流
- 双葉の多様な情報発信は、多くの支援者への何よりの恩返しとなる

⑨ 放射線不安への相談窓口

- 放射線問題は、地域に帰還しようとする際に、最初の大きな課題の一つ
- 専門家との仲介により、放射線に対する不安解消を後押し

福島県双葉郡教育復興ビジョン・コミュニティ復興拠点検討会概要

2015年4月24日

■検討概要：

1. 検討内容

双葉郡教育復興ビジョンにある「子供たちの実践的な学びが地域の活性化にもつながる、教育と地域復興の相乗効果を生み出す」というゴールをふまえて、コミュニティ復興拠点のアイデア具現化に向けた検討を進める。ハード（施設設備）のみならずソフト（取組内容）について協議する。

2. 期間とスケジュール予定

平成27年4月～6月目途

【第1回検討会】4月9日(木)13:30～16:30

□場所：富岡町教育委員会 会議室(郡山市桑野2-1-1)

□議事：検討会の目的(ゴール)の確認と、情報の共有

- プレゼンテーション
 - WG2 で検討してきたコミュニティ復興拠点の果たす機能について
 - ふたば未来学園内のコミュニティスペース(イメージ)案について
 - イノベーション・コースト構想とアーカイブ拠点の構想について
 - 東山田中学校コミュニティハウスについて(事例紹介)
 - 震災復興における学校の再生について(事例紹介)
- 質疑応答・意見交換



【第2回検討会】4月17日(金)10:00～12:30

□場所：富岡町教育委員会 会議室(郡山市桑野2-1-1)

□議事(案)：アイデアの具現化に向けた具体的な検討

- プレゼンテーション
 - ふたば未来学園で取り組む教育内容について(丹野校長)
 - 「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」について(下田室長補佐)
 - ふたば未来学園コミュニティスペースの果たす役割(案)と新校舎施設平面図
- 質疑応答・意見交換



【第1回実務者協議】5月8日(金)9:30-11:30 <予定>

(設計要項のたたき台をつくるための仮設計案を策定)



【第3回検討会】 5月25日(月)9:30~12:00 <予定>

□場所： 富岡町教育委員会 会議室(郡山市桑野2-1-1)



適宜、実務者協議を実施し、要項づくりをすすめる



【第4・5回検討会】 ~6月目途

アイデア具現化の企画案(設計要項)とりまとめ

コミュニティ復興拠点検討会・参加者リスト（2015年4月17日時点）

中田スウラ（座長）	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長・人間発達文化学類教授
竹原 和泉	横浜市東山田中学校コミュニティハウス館長
小野田 泰明	東北大学大学院教授 日本建築学会理事
鍋島 豊	文部科学省生涯学習政策局 社会教育課 地域学校支援推進室長
野口 宏志	文部科学省生涯学習政策局 参事官付 参事官補佐
片貝 英行	文部科学省生涯学習政策局 参事官付 連携協力第一係
原 典久	復興庁 参事官
中村 隆之	復興庁 参事官補佐
井上 博雄	復興庁・内閣府 参事官
力丸 忠博	福島県企画調整部 文化スポーツ局 生涯学習課長（オブザーバー）
佐藤 安彦	福島県企画調整部 企画調整課 副課長（オブザーバー）
大類 由紀子	福島県教育庁 教育総務課長
佐川 正人	福島県教育庁 社会教育課長
平久井 淳	福島県教育庁 社会教育課 主任社会教育主事
丹野 純一	福島県立ふたば未来学園高等学校 校長
南郷 市兵	福島県立ふたば未来学園高等学校 副校長
武内 敏英	福島県双葉郡大熊町教育委員会教育長
猪狩 省造	福島県双葉郡葛尾村教育委員会教育長
畠山 熙一郎	福島県双葉郡浪江町教育委員会教育長
秋元 正	福島県双葉郡川内村教育委員会教育長
矢内 賢太郎	福島県双葉郡檜葉町教育委員会教育長
石井 賢一	福島県双葉郡富岡町教育委員会教育長
半谷 淳	福島県双葉郡双葉町教育委員会教育長
浅野 一	福島県双葉郡広野町教育委員会教育長
加賀 博行	福島県双葉郡広野町教育委員会 学校教育課 課長補佐兼係長
松本 正人	広野町（ふたば未来学園立地町）復興企画課長
庄野 富士男	双葉郡教育復興ビジョン推進協議会 事務局長
赤司 展子	双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局 コーディネーター
山中 藍（文責）	双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局 コーディネーター

以上